



埼玉県立
循環器・呼吸器病センター
病院長 池谷 朋彦

本年4月に開設30周年を迎えた「埼玉県立循環器・呼吸器病センター」（埼玉県熊谷市）は、「誠意と熱意をもって患者に接する」という理念を掲げ、循環器・呼吸器疾患の専門病院として、循環器内科、脳神経外科、呼吸器内科など各分野で高度かつ先端の医療の提供を目指している。

ハイブリッド手術室を設置し、心臓および大血管疾患などの循環器系疾患に対する低侵襲のカテーテル治療に対応。脳血管疾患においては、カテーテル治療から開頭手術まで幅広い治療法が可能だ。また、肺がんを中心に、結核や間質性肺炎などの呼吸器疾患の治療にも注力し、埼玉県北部エリアで質の高い医療の提供に努めている。これらの取り組みについて、池谷病院長にお話を伺った。

埼玉県立循環器・呼吸器病センター

循環器・呼吸器病、脳血管障害に対する 質の高い医療の提供をめざして



カテーテル治療の様子

**Q. 専門病院としての循環器疾患の
取り組みについてお聞かせください**

循環器疾患については、弁膜症や心筋梗塞・狭心症などの心臓疾患は心臓外科と循環器内科、大動脈疾患は心臓外科と血管外科で話し合い治療方針を決定。3科が垣根を設けず、全スタッフが情報を共有し治療に当たっています。

循環器内科では、日本循環器学会認定の循環器専門医が13名在籍。冠動脈疾患だけでなく弁膜症に対しても、TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）などカテーテルを用いた患者さんへの負担の少ない低侵襲治療を積極的に行っています。

心臓と脳以外の全ての血管に特化して扱う血管外科があるのも当院の特徴です。

同科では、3人の医師がステントグラフトという筒状の機器を留置し、あらゆる大動脈瘤の治療を行っております。閉塞性動脈硬化症（末梢動脈疾患）では、血管内治療と外科手術を状況に応じて使い分けております。

心臓外科では4人の医師で、大動脈破裂など1分1秒を争う病気もできる限り受け入れ、術後管理やその他の救急疾患にも対応しています。

当院が心がけているのは、単に症例数を追求するのではなく、患者さん一人ひとりの立場に立った適切なオーダーメイド医療の提供。まずは健康を回復させ、早期社会復帰を主眼に医療を提供していきます。

**Q. 呼吸器疾患や脳神経の
疾患についてはいかがでしょうか？**

呼吸器内科では、結核の治療に加え、コロナ禍において多くの新型コロナウイルス感染症の患者さんを診療してきました。慢性疾患では、喘息やCOPD、間質性肺炎の専門的治療を得意とし、病理診断科の医師と連携して質の高い診療をめざしています。肺がんについては、診断から化学療法まで専門性をもって多くの患者さんに診療を行っています。

呼吸器外科では、肺がんを中心に、ほとんどの症例で胸腔鏡下の低侵襲手術を実施しています。従来の筋肉や肋骨を切断する開胸手術に比べ、傷口が小さく、患者さんの負担が軽減され、術後の早期回復が期待できます。

脳神経外科では、6名の医師が脳動脈瘤に対する開頭クリッピング術やコイル塞栓術、頸動脈狭窄症などへのカテーテルを用いたステント留置術といった治療を幅広く提供しています。急患もほとんどお断りせずに受けており、この地域における脳神経疾患の領域において重要な役割を担っています。



放射線治療装置



脳神経外科手術の様子

**Q. 地域における病院の役割について
どのようにお考えですか？**

埼玉県北部地域は、南部地域と比較して総合病院が少なく、当院が「最後の砦」のひとつとしての役割を果たすべきだと考えています。病院長として、また熊谷の一住民として、この病院を高いレベルで維持・存続させていきたいという強い意志を持っています。

そのためには、総合的な診療体制を整え、行政や地域の先生方と協力しながら改革を進めていく必要があると考えています。また、地域の先生方からご紹介いただく患者さんをよりスムーズに受け入れるため、デジタル技術を活用し、DX化も推進していければと思います。



外観

**Q. 最後に、地域の方への
メッセージをお願いします**



当院は今年、設立30周年を迎えました。これまで熊谷市、深谷市、東松山市、秩父市を中心に、多くの患者さんにご利用いただいております。当院は紹介制のため、敷居が高いと感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、かかりつけの先生を通して、安心してご受診いただけます。どんな些細なことでもお気軽にご相談ください。

今後、地域の皆さまの健康を支えるために、医療スタッフ一同、幅広く質の高い医療の提供に努めてまいります。今後とも、どうぞよろしく願っています。

